



RAKUWA
lecture of health

第128回

らくわ健康教室

介護版

2012年12月18日



小規模多機能って？

洛和小規模多機能サービス山科小山 主席係長
介護福祉士

さかきばら まなぶ
榊原 学



子どもたちのために、未来へ…

洛和会ヘルスケアシステム[®]

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院
洛和会音羽記念病院 洛和会みささぎ病院

小規模多機能って？

小規模多機能って？

そもそも、小規模多機能とは何を意味するのでしょうか。

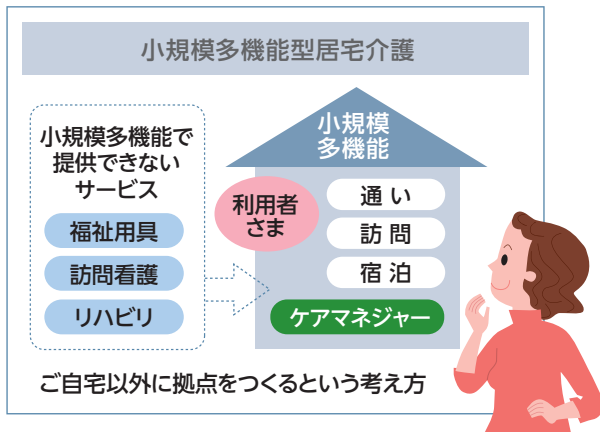
「何が小規模なの？ 建物、それとも、人数？」

「多機能って何？ どんなことができるの？ どんな機能があるの？」

このような疑問があるのではないのでしょうか。小規模多機能型居宅介護を紹介するパンフレットによくみられる説明は、次のようなものです。

- 利用者の心身の状態や希望に応じて、「通い」を中心に「訪問」や「宿泊」を組み合わせたサービス。
- 住み慣れた町でその人がその人らしく生きるための支援を行うサービス。

さらにいえば、小規模多機能型居宅介護では、ご自宅以外に拠点をつくるという考え方が基本にあります。



ほかの介護保険サービスとの比較

ほかの介護保険サービスとの違いをみると、次のような点が挙げられます。

1 ケアマネジャーが小規模多機能型居宅介護専属に変わる

- 良い点**
- すぐに相談できる環境がある
 - 援助計画の変更がすぐに実施できる

- 悪い点**
- なじみのケアマネジャーとの別れがある

2 登録制であり、介護保険の料金が定額

- 良い点**
- サービスの利用量に制限がない

- 悪い点**
- 介護保険の料金が高い
 - 介護保険で決められている利用限度額の多くを小規模多機能型居宅介護で利用するため、残る利用可能な金額が少なくなり、思い通りに訪問看護や福祉用具を利用することができない

3 それまでに利用していた介護サービスが終了になる

- 良い点**
- 生活を立て直すことができる
 - 「通い」も「訪問」も「宿泊」も同じ職員が援助するので安心感がある

- 悪い点**
- なじみの職員、利用者さまとの別れがある
 - 週間スケジュールが変更になる

4 「通い」の利用に定員がある (1日15人まで)

- 良い点**
- 少人数で穏やかな生活が送れる
 - 個々の対応が充実する

- 悪い点**
- 利用回数に制限はないが、定員があるため、毎日の利用などは難しくなる

5 「訪問」の内容や回数が変更になる

- 良い点**
- 援助者が小規模多機能型居宅介護の見慣れたスタッフ
 - 短時間の利用が可能 (安否確認電話も可能)

- 悪い点**
- 援助者を固定できない
 - 小規模多機能型居宅介護に出勤する職員が訪問するため、活動量に限界がある
 - 生活援助の実施基準は通常の訪問介護と同じ



具体的なサービス内容

「通い」の利用

- 早い時間からの利用が可能
 - 遅い時間の帰宅が可能
 - 来所後に朝食、帰宅前に夕食をとることもできる
 - 短時間の利用も可能
(例: 昼から来所、「宿泊」から利用)
- ➡ **生活パターンに合わせて利用できる**

「宿泊」の利用

- 通常のショートステイよりも利用しやすい
 - 急な利用が可能
 - なじみの利用者さまと「宿泊」が可能
- ➡ **ご家族の要望をかなえやすい**

「訪問」の利用

- 必要によって随時「訪問」が可能
 - 短時間の利用が可能
 - 安否確認(電話含む)のみの利用も可能
- ➡ **一人暮らしでも安心**

ご利用の事例

次のような方が利用されています。

【Aさんの例】

相談を受けた時の状態

- 80歳代女性、独居、要介護2、成年後見制度利用

ご自宅では、訪問介護を週7回と訪問看護、福祉用具レンタルを利用していた。また、デイサービスを週2回利用していた。1人で過ごす時間が多く、寂しさや不安が募っていたが、ご自宅での生活継続を強く希望。

開始時のプラン

- 週6日の「通い」
- 来所後に朝食をとることで、朝の訪問(調理)が不要に
- 週1日はご自宅で過ごし、小規模多機能型居宅介護の事業所から「訪問」(掃除・通院)
- 訪問看護を終了し、事業所の看護師が服薬管理
- 福祉用具レンタルの内容を見直し



6カ月後

- 肋骨骨折がきっかけで「宿泊」利用を開始
- 体調回復後も夕食後に帰宅となる
- 後見人を交えて施設入所について相談
- 台風や体調不良のたびに宿泊するようになる

「ご自宅へのこだわり」を「人が居る安心感」が上回る

1年6カ月後

- グループホームに入所する
- 入所前約1カ月間、事業所に泊まり続けた

グループホーム入所に向けて、スタッフの意識統一ができていたため、不安なく送り届けることができた

【Bさんの例】

相談を受けた時の状態



- 60歳代女性、独居、要介護4、洛和会音羽病院に入院中
- 脳出血により高次脳機能障害があり、退院後に1人で生活できない
- 同じマンションに長男家族が居住しているが、長男は他府県に単身赴任中
- 家族間不仲あり

開始時のプラン

- 退院直後から連続して「宿泊」の利用を開始
- 週に1度、長男とご自宅に戻る
- 長男は5カ月後に京都に拠点を移す予定

ご自宅で生活できるめどが立たないまま利用を開始。週に1度はご自宅に戻るが、1人の時間はほぼ皆無であり、本人も入院の延長の感覚だった。

3カ月後

- 兄弟間が絶縁状態であることが判明
- 次男が後見人を申し出るが裁判所の判断で第三者が後見人となる
- 体調回復により要介護2に下がる
- ご自宅で過ごせる時間を長くする

6カ月後

- 長男が京都に戻る
- それに伴い週3回の「通い」と「訪問」に変更となる
- ご自宅での介護は全て長男が対応
- 長男の「自分で母親をみる」という思いに添ってプラン変更する

小規模多機能って？

よくある質問



Q ほかにどんな介護サービスが使えるの？

A 小規模多機能型居宅介護と併用できるサービスは「訪問看護」「訪問リハビリテーション」「福祉用具レンタル」「往診や訪問歯科」です。

※ほかの「通い」「訪問」「宿泊」のサービスは使えません。

Q 利用が難しい例は？

A 「訪問が必要であるがご自宅が遠い」「常に医療行為が必要」「集団生活に適さない」「経済的に不安がある」などの場合、利用できません。

Q 入院した場合、退院後に必ず利用を再開できるの？

A できない場合があります。小規模多機能型居宅介護は登録制ですので、特に長期間入院された場合、契約が解除になることがほとんどです。

Q 一人暮らしの方も利用できるの？

A 可能ですが条件がやや厳しくなります。小規模多機能型居宅介護における「訪問」が必要な方のほとんどが一人暮らしの方ですが、小規模多機能型居宅介護の事業所が1日に「訪問」できる件数には限りがあるため、一人暮らしの方ばかりが登録されるとスタッフが足りなくなることがあるからです。

Q 利用するにはどうすればいいの？

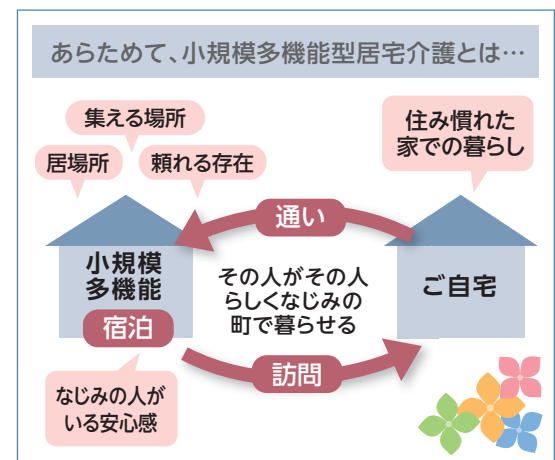
A ケアマネジャー、または小規模多機能型居宅介護の事業所に直接相談してください。

まとめ

小規模多機能型居宅介護とは、

- なじみの関係をつくるために必要な「小規模」
- 利用者さま・ご家族の思いに近づくための「多機能」

な介護サービスです。



- 小規模多機能型居宅介護は、利用者さま（ご家族）の要望に応えやすく、在宅生活を続けたいと考えておられる方にとっては満足度が高いと思われます。
- 利用回数などの融通はききやすいですが、決して「何でもできる」「いくらでも使える」わけではありません。
- 今後の在宅での認知症介護の要として期待されており、今後増えていくことが確実です。

2012(平成24)年12月1日現在、京都市内には34カ所の小規模多機能型居宅介護があります。

小規模多機能型居宅介護利用料(月額)

介護度	一割負担(円)	各種加算	
要支援1	4,715	初期加算	+
要支援2	8,435	認知症加算	
要介護1	12,059	体制加算	+
要介護2	17,223	看護師配置加算	
要介護3	24,567	事業開始支援加算	
要介護4	27,005		
要介護5	29,667		

食費

宿泊費

おむつ代など